

巻頭言

三井住友建設技術開発センター報告第8号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

世界同時不況による影響を受けたわが国の設備投資の急激な落ち込みは、やや落ち着きを取り戻しつつあるものの、建設投資は相変わらず減少傾向にあり、2010年度においても民間投資の大きな回復が望めないことに加えて公共投資が大幅に減少することから、全体として一段と水準を下げると予想されています。また、政権交代後の新政権下でCO₂削減を1990年比の25%とする目標が打ち出されるなど、経済的にも政治的にも建設業を取り巻く環境は大きく変化してきています。

弊社におきましては、このような社会状況・市場動向に迅速に対応するため、本年度（平成22年度）を初年度とする新たな中期経営計画「第3次中期経営計画」をスタートさせました。その中では、「施工プロセスの確実な実行」「環境をキーワードとした企業活動の推進」が大きな柱として掲げられています。

「施工プロセスの確実な実行」については、発注者やお客様の信頼を獲得し三井住友建設ブランドを確立すること目的に、高品質な建造物の提供を目指して橋梁高品質化委員会・住宅高品質高機能化委員会を社内に設置し、すでに3年目に入り多くの成果が得られるに至っています。技術開発におきましても、これら高品質化関連委員会と連動する形で、PC橋や超高層住宅など得意分野の更なる高度化、高付加価値化に資する技術開発を鋭意進めております。

一方、「環境をキーワードとした企業活動の推進」については、地球温暖化対策や二酸化炭素排出量削減などの環境経営の充実に加えて、環境に寄与できる技術開発を多方面より展開しております。平成22年度技術開発テーマにおきましても、約4割が環境負荷低減に関連したテーマとなっており、この傾向は今後益々加速していくものと考えられます。

品質と環境、これらを両輪として、顧客ニーズを的確に捉えた技術開発をタイムリーに発信することにより弊社経営計画の確実なる実行を達成するとともに、未来社会の構築に貢献していく所存です。

技術開発センター報告を多くの方々にご覧頂き、ご批評を賜れば幸いです。

2010年9月

常務執行役員

技術研究開発本部長 兼 技術開発センター長

黒崎 幸夫